

大倉本澄 おほくら ほんじやう 英詩教育家。渡應二年二月二十四日備前國岡山生れ
(一八七〇)。號折鶴、竹隱。大阪英和學舎を経て立教大學校に入る。

卒業後、日本鐵道會社外事課に勤務。傍ら在學中興味を覺えた英文學
の譯筆を執り、ロビン「エック作ぶゆりもす、モーゼの講義」(内題「ジエ
リアス、シーザー講義」明治二十五年十二月二日開新堂書店)刊行、
更にロビン「ペンスケツチブック註釋」(明治二十六年二月六日、第
二卷・二十七年二月二十三日開新堂書店)を著はした。その後職を辭
してアメリカ人ビショップ、マッキムの訳書、のちイギリス公使ホワ
イトヘッドの翻譯官兼秘書を務めた。一方東京神田のアーサー・ロイ
ド等外國人教師十一名を擁して東京英語學校を創設、生徒約五百名を
有した。

明治三十五年上田萬年ゆづしの推薦により第六高等學校に赴任。大正三年文
部省の命によりアメリカ留學、ハーヴァード大學院に入り、衆望を擔
つて外國人初の全監となつた。滯米六年、歸國後は甲南高等學校に轉
じ、退職後萬國基督教五一會を設立して傳道に従事。

また趣味多く、繪畫、喜多流謡曲を嗜んだ他、上村實劍の聲教社に加
はつて漢詩を作り、素琴志田義秀、佐々木邦等と俳句、川柳を遊んだ。

甲南高等學校辯論俱樂部編『萌芽』6(昭和十二年六月三十日刊)は
へ大倉本澄翁古稀記念の號。

